

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス パースデー			
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日		～	令和7年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日		～	令和7年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年4月5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	完全個別・少人数によるきめ細やかな支援 1枠1～3名で対応することで、一人ひとりの状態や発達に合わせた柔軟な支援が可能。	その日の気分や様子に合わせた支援の調整 「今日はやる気がある／ない」など子どもの心身の状態を読み取り、スモールステップや代替活動を提案する工夫をしている。	支援内容・判断の共通化（スタッフ間での支援観の共有） 「こういう時はこう支援する」など、支援の質を職員間でそろえ、誰が関わっても安心できる体制を整えていく。
2	運動を通じた発達支援の専門性 ジャンプ・ビジョントレーニング・感覚統合など、発達段階に応じた運動を取り入れている。	できた！を実感できる課題設定と仕掛け 達成しやすいステップや、パースデー独自の「がんばりカード」「トークンシステム」で達成感を高めている。	子ども自身が「自分の成長」を言葉で振り返る機会をつくる 「がんばったこと・できたことを子どもの言葉で振り返る時間を意識的に設ける。
3	子どもの「やりたい・やりたくない」に寄り添う無理をさせない支援 苦手なことを無理にやらせず、子どもの気持ちに沿った関わりが徹底されている。	安心して通える場となるよう、視覚的に親しみやすく、ワークできる要素が取り入れられている。	子ども自身が気持ちや選択を言葉で表現できるように支援 「今日はこれができた」「こんな気持ちだった」など、簡単な振り返りや対話を取り入れて、自己理解・自己決定を育てる支援を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動中心の支援の中で、発語・やりとり・表現活動がやや手薄になりやすい 言葉で表現する経験や対話的やりとりの場面が少なくなることがある。	運動を軸とした支援構成により、言語的な表現や対話の時間が活動の中心にはなりにくい 言語支援は意識されているが、子ども同士で“言葉を交わす”場面はまだ少ない。	子ども同士の“言葉のやりとり”が生まれる仕掛けを増やす スタッフからの声かけだけでなく、「子ども同士が言葉で伝え合う」体験を支援の中に組み込む。 言葉を「聞いて→考えて→相手に伝える」プロセスを、遊びや運動に組み込んでいくことで、実践的な言語スキルの育成につなげる。
2	年齢の違う子ども同士が関わる経験が少ない 模倣・憧れ・教え合いなど、自然な学び合いのチャンスが限られている。	完全個別または少人数で発達段階をそろえて支援する体制が中心で、年齢ミックスの活動機会が少ない 支援の質を保つために“マッチング重視”になっている面がある。	年に数回の「異年齢交流あそび」やペア活動の導入 安全性と個性性に配慮しながら、協力プレイや役割交代のある活動で交流の土台を育てる。
3	園や関係機関との“継続的なやりとり”が少ない 支援開始時やモニタリングのタイミングでは情報共有が行われているが、日常的・定期的な連携が不足しており、支援内容や子どもの変化について関係機関と共有する機会が限られている。	個別支援や保護者対応に集中する中で、外部との連携が後回しになりやすい パースデーでは個性性を重視したきめ細やかな支援が行われており、スタッフの時間の多くが現場対応に費やされている。その結果、外部機関への連絡や定期的な情報発信のための時間的余裕や体制が整いにくなっている。	担当者を明確にし、「月初に報告を送る」「モニタリング前に事前連絡を入れる」など、外部とのやりとりを業務として定着させる工夫を進める 保護者経由での情報伝達だけに頼らず、三者連携（園・家庭・事業所）を意識した体制づくりを行っていく

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス パースデー

公表日 令和7 年 5 月 26 日

利用児童数 16名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11					
	3	生活空間は、こともにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11					
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11				子供の運動能力に合わせた運動内容だと思う。子供の挑戦しようとする気持ちにも、安全性に配慮しながら寄り添ってけている。	今後もお子様の成長に寄り添い、安全に配慮した指導を続けてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11				アプリから見られないので、確信はないですが、おおよそそう思う。	ご希望によりアプリや紙面でわかりやすくご案内できるよう工夫してまいります。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	1			ガイドラインまでは把握しておらず、それに沿っているかは何とも言えない。	今後アプリや紙面でわかりやすくご案内できるよう工夫してまいります。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	1			確認するべきがない。ただ、子供の筋肉や体力、運動能力の向上はしているの、おおむね満足している。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11				毎月テーマがあり、それに沿っている。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	4	4			
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10			1	アプリで支援内容は把握している	アプリの内容もより見やすく、活用しやすいよう改善を続けてまいります。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	4	4			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	11					
保 護 者 へ の 説 明 等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	2	6		パースデーでの体験会など、兄弟同士の交流の機会があると嬉しいです。	ご兄弟での交流や保護者とのコミュニケーションの機会について、前向きに検討いたします。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	1			送迎のタイミングでお話することはできるが、十分な時間はないので、そのための時間が設けられると助かるなぁと思います。	保護者の皆様とお話してきる機会の必要性を感じております。見学時以外の時間にも個別面談や相談時間の設定など、コミュニケーションの機会を設けられるよう検討してまいります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11				送迎のタイミングで話したり、毎月の運動のテーマなどは紙面で配布されている。	今後もわかりやすく、タイムリーな情報提供を心がけてまいります。あわせて、アプリや掲示物なども活用し、情報の伝達方法をより充実させてま
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11					
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	2	1			
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	4	1			
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	2			子供が運動する際の手添えなどはされている。施設や空間としての安全確保の周知はない気がする。	安全面の周知について、毎月の活動記録などでお伝えし、ご安心いただける環境づくりを続けてまいります。
非 常 時 等 の 対 応	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10	1			実際にそういう場面はないが、ケガをしている時の配慮や、子供の元気のなさなどに気がついてくださり、よく見てくださっていると思います	事故発生時の対応訓練や避難訓練について、毎月の活動記録などでお伝えし、ご安心いただける環境づくりを続けてまいります。
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	11				先生たちのことが大好きで、個別に対応してくださっていることもあり、安心して通っている。信頼関係ができていると思う。	スタッフ一同大変嬉しく思います。お子様との信頼関係を大切にし、これから一人ひとりに寄り添った対応を心がけてまいります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	11				いつも笑顔で行くのを楽しみにしている。	お子様が楽しみに通ってくださっていることは、私たちにとって何よりの励みです。今後も笑顔あふれる活動を提供できるよう努めてまいります。
満 足 度	29	事業所の支援に満足していますか。	11				運動用具なども充実しており、それらをまんべんなく使用して運動してくださっていて、親としても満足しております。	多様な用具を通して、楽しく効果的な運動体験ができるよう、引き続き環境の充実を図ってまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 年 月 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		1回に利用する児童は1～3人なのでスペースは充分。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		1回に利用する児童は1～3人なので配置数は充分。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		備品庫に収納している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		フロアはひろいので、走り回ることができている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		クールダウンにしようしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		振り返りや意見交換は毎日行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		意見交換は毎日行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3		コンサルタントに相談し業務改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		ネット上で研修はいつでも見れる状況になっている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		HUGアプリや紙媒体で公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3			記録に「〇〇した」の1文のみで書かれていることがあるが、どのように変化したかなど書く必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	2		必要に応じて情報共有をした方が良い。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)		3		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		3		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		毎回見学をしてもらいその際にお話をしている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		3		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		Instagramをほぼ毎日更新している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		3		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		研修や会議でスタッフ全員に周知し、ロールプレイングをしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		エビベンの研修を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3			